

行財政委員会行政視察報告書 (兵庫県相生市・岡山県玉野市)

行財政委員会委員長 平野広行

視 察 名 弥富市議会行財政委員会行政視察
日 時 令和元年8月19日(月)・20日(火)
視 察 先 【1日目】兵庫県相生市
【2日目】岡山県玉野市
視 察 項 目 【1日目】相生市：子育て応援施策「11の鍵」・「相生っ子学び塾
事業」について
【2日目】玉野市：コミュニティバスの取り組みについて

視察参加者 議 会 議 員 14名

平野 広行、鈴木みどり、三宮十五郎、大原 功、
炭竈ふく代、武田 正樹、佐藤 高清、堀岡 敏喜、
三浦 義光、早川 公二、那須 英二、永井 利明、
高橋八重典、加藤 克之

執行部職員 1日目 2名 2日目 2名
事 務 局 2名

① 8月19日(月) 兵庫県相生市

兵庫県相生市の概要

相生市は、兵庫県の南西部に位置し、姫路市へはJR山陽本線・山陽新幹線で東へ21km、さらに神戸市へは76kmの距離にあります。

南は風光明媚な瀬戸内海国立公園の一部を含み、北は播磨科学公園都市、北東は「赤とんぼ」の詩情豊かな『たつの市』、西は「赤穂義士」で名高い『赤穂市』に接し、海岸部から平地、山間部へと伸びる南北に長い市域です。

造船業を中心とした工業都市として発展してきましたが、現在、社会変化に対応するまちづくりを展開しています。また、西播磨テクノポリスの副母都市として、産業・経済の基盤づくりを進めています。また、1年を通じて瀬戸内海特有の穏やかな気候風土に恵まれており、瀬戸内海国立公園、西播丘陵県立自然公園など自然景観を活かした観光施設として、

「万葉の岬」「羅漢の里」などや市の伝統行事であるペーロンをテーマにした「白龍城（ペーロンジョウ）」があり、天然温泉などが楽しめます。

【現在の市域は東西 7.98km、南北 19.56km で総面積 90.40km²】

人口（令和元年6月末日現在）

総人口	男	女	世帯数
29,455	14,220	15,235	13,321

令和元年度予算総額は、一般会計 約128億円、特別会計 約100億円、事業会計 約7億円。総額は、約235億円。

相生市議会の概要

議員数は、現在14人。

組織としては、常任委員会が総務文教委員会、民生建設委員会。

特別委員会は、議会広報編集委員会。その他、予算、決算を審査する場合は、予算等審査特別委員会、決算審査特別委員会を設けている。

相生市視察目的

相生市では、定住促進施策として「11の鍵」を掲げ、「子育て応援都市を宣言」している。

「相生っ子学び塾事業」とし、小学校5・6年生の希望者に放課後の居場所づくり・自習力と基礎学力向上を図るため、週に1回国語と算数の学習塾、月2回程度の英語と珠算の教室を無料で実施している。

本市においても、子どもたちの学習環境づくり、放課後の居場所を確保し、父母が安心して働ける環境の充実は課題である。

相生市視察の概要

8月19日（月）13:00～ 相生市役所にて

最初に相生市の概要説明に続き、市内外にPRを展開している定住促進事業「11の鍵」。今回は特に現代版寺子屋「相生っ子学び塾」を中心に説明を受けた。内容は以下のとおりである。

「相生っ子学び塾」は子供たちの生きる力を育むため、放課後の居場所づくりと、基礎学力の定着と自学自習の姿勢を身に付けてもらおうと、現代版寺子屋として、平成25年度から国語・算数・英語、さらに平成27年度からは珠算を開設し、自ら学びたいと考える子どもたちの健やかな成長を支えていくことを目的に開設。

市内小学校5、6年生の希望者を対象に国語・算数・英語は、各小学校で放課後に1時間、珠算は、月3回文化会館で1時間の塾を開催している。

講師を教員OBなどが中心のボランティアが担い、リーダー講師を中心とした講師打ち合わせ会を月1回行い、意見交換した統一認識で塾運営を行っている。

以上の様な説明後、質疑及び意見交換が行われた。

相生市「11の鍵」

- ①新婚世帯家賃補助金事業
- ②住宅取得奨励金
- ③妊婦健康診査補助
- ④出産祝金支給
- ⑤こども医療費助成
- ⑥子育て応援券交付
- ⑦保育料軽減事業
- ⑧私立幼稚園預かり保育事業
- ⑨給食費無料化
- ⑩相生っ子学び塾
- ⑪ワンピースイングリッシュ事業

相生市視察所感

委員からの意見としては、子供たちの基礎学力の向上、自学自習の習慣づけを行うことで、学力の底上げを図ること（子育て施策）、地域ボランティアや教師OBなどの協力による地域の活性化への取り組み（地域コミュニティ施策・高齢者施策等）を一つの事業に盛り込むことができている。「子育て応援施策」を一時的な子育ての側面からだけでなく、地域コミュニティ形成の基礎として捉え、人口減少、少子高齢化に本気で取り組もうという強い思いを感じた。との評価があった。

また本市でも、少子高齢化は確実に進んでいる。「あれもこれも」の均一配分より目標を明確にした「集中と選択」が必要な時期ではと思う。誰もが一生住み続けたいと思う施策、アイデア、市民への周知の仕方を今一度考えるべきと意見集約された。



② 8月20日(火) 岡山県玉野市

岡山県玉野市の概要

玉野市は、岡山県の南端に位置し、瀬戸内海の美しい自然に恵まれた、風光明媚で温暖な気候の港町です。

市の中心部にある宇野港は、岡山県の海の玄関口であり瀬戸内海の海上交通の重要拠点として発展してきました。フェリーの定期航路のほか、近年では大型船舶が着岸できる耐震バースに外国からのクルーズ客船の寄港も増えています。

産業については、造船業の企業城下町として発展してきたこともあり、多くの造船関連企業が集積する「ものづくりのまち」といわれ、製造業が中心となっています。

近年、市民のまちづくりに対する参画意識が高まっていることから、地域が主体性を持ち、その能力を十分発揮できるよう市民活動の積極的な支援を行い、市民と行政との協働によるまちづくりを進めるとともに、本市を取り巻く環境の変化に適切に対応し、限りある財源の中で事業の選択と集中を行いながら、「瀬戸内に輝く市民が誇れるまち～たまのからはじまり未来へつなぐ～」を将来像として掲げ、地域の特色を生かした満足度の高いまちづくりを進めています。

【現在の市域は東西 16.2km、南北 14.3km で総面積 103.58km²】

人口（令和元年6月末日現在）

総人口	男	女	世帯数
59,140	28,849	30,291	27,601

令和元年度予算総額は、一般会計 約226億円、特別会計 約334億円、企業会計 約105億円。総額は、約665億円。

玉野市議会の概要

議員数は、現在19人。

組織としては、常任委員会が総務文教委員会、民生委員会、産業建設委員会。

特別委員会として、議会報編集委員会。

玉野市視察目的

高齢化社会、若者を含め交通弱者における日常生活の便利な移動の自由の確保を目指し、本市にとって、どのような公共交通システムがよいのか、本市とよく似た地域性を持つ岡山

県玉野市の新公共交通システムを視察し、本市の公共交通システムの確立を目指す。

玉野市視察の概要

8月20日（火）10:30～ 玉野市役所にて

最初に玉野市の概要説明に続き旧交通システムから新交通システム移行への経過説明を受けた。内容は以下のとおりである。

旧交通システムにおいては市内を2路線に分け、いわゆる循環路線で市内をくまなく回っていたため、目的地に到着するのに時間がかかることから利用者離れが進み、本市と同じく「空気バス」と揶揄されるようになった。市長主導による上位計画である玉野市総合計画の下、3年かけて住民アンケート調査、関係者ヒアリング調査、住民意向、公共交通に係る現況、問題点を精査して玉野市地域公共交通網形成計画を策定した。

これに基づきコミュニティバスは以前と同じ2路線であるが循環路線ではなく、往復路線として目的地までの所要時間を短縮した。

同時に予約制による乗合タクシーを導入し、目的地またはバス停へ送迎する2つの交通手段を併用する新しい交通システムを確立し市民の満足度、利用者数の増加、更には事業費の削減につなげた。

一番の核である玉野市地域公共交通網形成計画では、計画区域は、市内全域とし、計画期間は、平成29年度から令和3年度までの5年間としている。

(1) 基本理念として元気で安心して暮らせるまち、活気あるいきいきとしたまちを支える公共交通網

(2) 基本方針として

①持続可能で利便性の高い公共交通網の構築

②誰でも利用しやすい利用環境の整備

③関係者の連携による公共交通の維持・確保

以上3項目を掲げそれに対しての目標を立て評価指標を定めている。

(3) 玉野市が目指す将来の公共交通網の姿を示す

(4) 目標達成のために行う事業として

①利便性の高い公共交通を維持するため、バス・タクシーのダイヤ見直し、運賃制度の見直し、タクシーの効率的な運行の検討等。

②利用者の目線に立ったわかり易い情報提供を行うため、情報提供ツールの整備、バスロケーションシステムの導入、スマホ、パソコン等による情報提供システムの構築等。

③公共交通のバリアフリー化、シームレス化の推進。

④他事業や関係者との連携を強化し新規利用者を増やす。

以上のような取り組みを行う。

(5) 事業スケジュールの作成

(6) 計画達成状況の評価としてPDCAサイクルを導入し、玉野市地域公共交通会議で適

時評価・検証し、必要に応じて事業の改善を図りながら、計画を推進する。
以上の様な説明後、質疑及び意見交換が行われた。

玉野市視察所感

委員からの意見としては、住民の要望を職員が各地域に出かけ、膝詰めによる聞き取りを何度となく行い交通システムの改善に反映したこと、地域公共交通網形成計画を作成し、絶えず市民の声を聴き利便性を追及している取り組みが、素晴らしいとの評価があった。

また本市への導入策としては、循環型路線から往復型路線への変更、バスとタクシーを併用した交通システム、徹底して市民の意見を聴く場を設け、常に利便性の向上に心がけること。これらを取り入れ、弥富市版の地域公共交通網形成計画を策定し、市民の誰もが利用しやすい持続可能で利便性の高い公共交通網の作成を目指すべきと意見集約された。



宇野駅に到着後、玉野市役所
に向けシーバスに乗車させ
ていただきました。

